洋上アルプス

No.334　2023年1月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター

バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/

鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL　0997-42-0331

太鼓岩より

公益重視の管理経営と次世代へとつなぐ屋久島の森林

屋久島森林管理署
署長 黒木 興太郎

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は皆様から屋久島森林管理署に対して格別のご理解とご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

屋久島森林管理署では、今年も主伐・再造林の計画的な推進による多様で健全な森林の整備・保全、世界遺産地域など貴重な森林の保全管理、地域と連携したヤクシカ被害対策、地スギや土埋木の安定した供給、外来種対策、生物多様性の保全、防災機能を高める治山事業など、引き続き、関係する地域の皆様方と協力しながら取り組んでまいります。

現在、屋久島では、民有林・国有林ともに屋久杉の遺伝子を持つ苗（地スギ苗）での植栽を進めていますが、今後、地スギ苗が不足することが懸念されていることから、若手職員が中心となり、将来の屋久島の林業（森林）のあり方について検討を始めました。今後、関係機関・団体および地域の皆様との合意形成やご意見など賜りながら、取組を進めていますので、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いします。

また、今年は世界自然遺産登録から30周年の節目の年を迎え様々な催しやイベントが計画されます。当署としましても屋久島町、関係機関、地域の皆様方と一緒になって協力するとともに、世界自然遺産の島の保全、利用、管理などがより適切に推進されるよう努めてまいりたいと考えています。

最後に、今年も国有林野事業への一層のご理解とご協力をお願いしますとともに、皆様にとって素晴らしい年となりますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新年を迎えて

屋久島森林生態系
保全センター
所長 山部 裕一

新年、明けましておめでとうございます。

旧年中は屋久島森林生態系保全センターに対し、格別のご理解とご協力を賜り心からお礼申し上げます。

昨年は、全国各地で甚大な自然災害や急激な円安、生活必需品の値上げ、海外情勢の悪化など多数の変化がありました。

また、全国的にも新型コロナウイルス感染症の猛威は衰えておらず、皆様におかれましても大変なご苦労があったことと思います。

さて、私事で恐縮ですが、昨年の4月に屋久島に赴任して何とか続いているのが朝の散歩です。朝起きて外に出ると、羽神岳や鉈折岳に雲がかかっているかいないか。また、宮之浦川岸や海岸を歩いては朝日が昇るのを見れるか見れないか等、色々とこの朝の時間は、普段は見慣れた屋久島の風景にも変化が見られ、一年を通してその変化を楽しむことができます。

こんな話があります。長年付き合っている恋人同士がいました。ある時、片方に新しい恋人ができました。「仕方ない」。もう片方は別れる決心をしました。片方の机に花を飾り、「ありがとう。」と書いて置きました。それを読んだ片方は、ほろりとなり、よりが戻りました。毎日、見ているとその価値を忘れがちだが、重い価値は見慣れているものの中にある、との例え話です。

屋久島に赴任して感じたことは、まず「身近な価値」を大切にする姿勢ではないでしょうか。我が町の人、味、歴史、自然。その重みを新鮮なイメージで見つめ直しては如何でしょうか。

このような屋久島の大切な世界自然遺産をこれからも適切に保全し、利用を図るために皆様のご理解とご協力をお願いするとともに、皆様にとって素晴らしい年となることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

アサヒビール調印式及び白谷雲水峡清掃ボランティアの実施（11月25日・26日）

屋久島町役場本庁で、屋久島レクリエーションの森保護管理協議会とアサヒビール㈱との間において「レクリエーションの森の整備・管理及び活用に関する支援協定」の調印式が行われました。

調印式では、アサヒビール・土井栄二九州南部統括支社長と協議会会長代理の日高豊副町長双方が協定書に調印を行い、今回で４回目の協定の更新となりました。

本協定は、ヤクスギランドや白谷雲水峡等の屋久島レクリエーションの森に対し5年間、資金や環境保全美化活動への労力を提供する内容となっており、初回は平成20年8月に締結されています。

翌日は白谷雲水峡において、協定に基づくボランティア活動を実施しました。

このボランティア活動は毎年行われていたものですが、一昨年・昨年ともに新型コロナウイルス感染防止の観点から中止になっており、3年ぶりの再開となります。

調印式の様子

内容としては木道の清掃（コケ落とし）で、小雨の降る中での作業でした。アサヒビール関係者14名を含めた総勢49名の参加者が一生懸命デッキブラシを使って木道を磨いたことで、苔やぬめりが取れて滑りにくくなり、より安全で快適な登山ができるようになりました。

木道を清掃する参加者

白谷雲水峡での集合写真

シカ罠を設置（12月12日）

当保全センターと宮之浦森林事務所及び小瀬田森林事務所合同で有害鳥獣捕獲として、くくり罠を使ったヤクシカの捕獲を職員実行により実施しています。

神之川林道沿いの国有林内において、関係職員全員でくくり罠を仕掛ける場所や仕掛け方などを確認共有し、獣道に直接仕掛けたりヘイキューブ飼料を使って誘引するなど現地に合わせた手法で設置しています。

ヤクシカの食害による森林生態系や農林業への被害が少しでも軽減されるよう、そして適正な生息数に近づくよう取り組んでいるところです。

罠を設置する様子

屋久島こんちゅう探訪　弐

公益財団法人屋久島環境文化財団インストラクター　渡邉 卓実

屋久島に既知で棲息する昆虫類は約3,000種と言われている。なぜ、「約」が付くのか。それは、研究者によって見解が違うからだ。

私は主に、クワガタムシ類とハサミムシ類を調べている。ハサミを持っている虫を好きなようにも見えるが、たまたまである。

その他の昆虫も見たことのない種類がいた場合は調べるようにしている。

その際の私なりのポリシーとして、必ず「生かして調べ、生かして帰す」ことを大事にしている。無駄な殺生が嫌いだからだ。

私は淡水性のエビ類も調査対象にしている。屋久島は黒潮の影響もあることから、エビ類の種数が多くいる。

2020年3月、女川上流（**図1**）を調査した際、タモ網で岩場をガサガサしていると網に何か黒色のものが入った。

大きさは少し大きめの米粒ていどのため、エビではない。採集したその場でマグソコガネの仲間であることは分かったと同時に、頭の中は？マークでいっぱいだった。

マグソコガネはいわゆる「糞虫（ふんちゅう）」である。つまり牧場などの開けた土地の獣糞に集まる昆虫が川の中から見つかった。

図1　女川上流の様子

図2　ヤエヤマニセツツマグソコガネ

調べていくにつれ、ヤエヤマニセツツマグソコガネ（**図2**）と同定をした。ヤエヤマニセツツマグソコガネ（以下、本種）は、牛などの動物の糞を餌としており、頭の先端が湾曲しているのが特徴である。

「糞」と聞くと良い印象は受けないが、本種のような分解者がいない土地は環境の循環が起こらず、ましてや野生動物の多い屋久島はそこらじゅうが糞まみれになってしまう。糞虫は森の掃除屋なのである。

本種を調べると面白いことが分かった。八重山諸島や種子島で記録はあるが、屋久島に分布をしていない種類だった。この調査で屋久島初記録となった。本種は飛ぶことができ、糞に潜ることもあるため、牛などの動物に付いてきた可能性もある。

このように、人が考える限りではあり得ない環境でも、何かの偶発で出会えることができ、それが新しい発見となる可能性を多く持っているのが昆虫なのだ。だから面白い。

（つづく）

屋久島北部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和2年度）

［標高1350mプロット（太古杉付近）］確認種数：37種（平成27年度調査：29種）

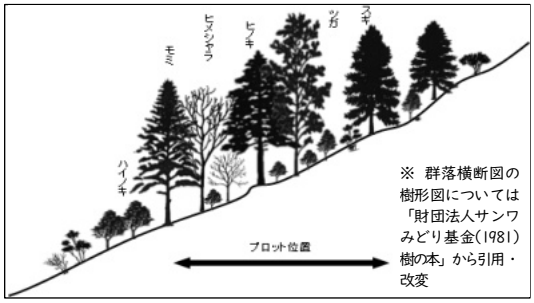
◆調査結果の概要　太古杉から北西側に登ってすぐのところにある。高木層はヒノキが優占し、ツガ、モミ、スギにヒメシャラが出現する針広混交林。大きいものでは胸高直径が100cmを超し、最大で200cmに達している。亜高木層はヤマグルマ、ユズリハ、ソヨゴが多く、低木層・草本層はサクラツツジ、ハイノキが突出して多い。空中湿度が高く、ヤマグルマの高所にヒノキの着生が見られる等、特異な景観である。現在のシカ食痕はヤマグルマに見られる程度であるが、過去に食害の影響を強く受けた林相である。

◆優占種の変化

階層区分	平成17年度	平成22年度	平成27年度	令和2年度
高木層（12.0m以上）	ヒノキ	ヒノキ	ヒノキ	ヒノキ
亜高木層（5.0m～12.0m）	ユズリハ	ハイノキ	ヤマグルマ	ヤマグルマ
低木層（1.2m～5.0m）	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ
草本層（1.2m未満）	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ

落下したヤマグルマの枝葉の食痕

オオキジノオに見つかった食痕（○印）



標高1350mプロットの群落横断図

「次世代の屋久島の森林・林業を守り育てる森林の体験・学習活動」シリーズ③

ウッドショップ木心里 代表 鹿島裕司　　子育て支援tetote 代表 日髙ゆかり

安房保育園の園児が12月7日、有限会社有水製材所、有水大吾氏（青年林業士）の指導のもと、楽しみながら林業について学んだ。

参加したのは安房保育園の年長児17人と保育士3人。島の山岳信仰の歴史や「山の神様に敬意を払い、あいさつをして入林する」という話を聞いたりしながら、山に入った。

チェーンソーの音が鳴り響く地杉を間伐する作業場に到着すると、有水兄弟（大吾氏・佑太氏）が無線機で連絡を取りながら協力して働く姿を見て「がんばれ」「かっこいい」と声援を送った。

見学した園児らは、さまざまな質問を投げかけ、回答に興味深く耳を傾ける様子を見せた。屋久島森林管理署の職員から林業についての説明を受けたり、杉の年輪を数えたりしたほか、海が見える現場まで林道を歩くなど、楽しみながら林業について学んだ。樹齢3年の杉の苗を見ながら「この森にまた苗を植え、元気な森にするんだよ」と説明を受ける場面も見られた。

こども達は、来年、同現場で植栽体験を行う予定。100年後も1,000年後も豊かな森を未来へ繋ぐことの大切さを、島の子どもたちに伝えていきたい。

「りんぎょう、だ～いすき。」の声掛けで記念撮影が行われ、20年後の林業の担い手に期待したい。

園児たちの質問に答える有水兄弟（大吾氏・佑太氏）

ヘルメットには、北海道森林管理局の平田美紗子氏作成の「リン子」エンブレムが輝く